近代日本文学における「変身」の隠喩
――安部公房の短編小説の分析――

オルネド・ペレス・アロエ、ルシア
指導教授　ヒガ，マルセーロ

戦後は安部公房の文学における重要な時期である。彼の初期と呼ばれる戦後の間に、未だ若い作家であった安部が後に書いた作品の礎を築いたときであるといえる。それにも関わらず、スペイン語圏では当時の作品があまり知られていないのは事実である。現在訳されているのは、一九七一年のカズヤ・サカイ訳の『砂の女』、一九九四年のフェルナンド・ロドリゲス・イスキエルド訳の『他人の顔』、そして寺尾隆吉訳の二〇一〇年の『人間そっくり』、二〇一一年の『不吉な物語集』という短編集、二〇一二年の『箱男』、二〇一三年の『月に飛んだノミの話集』という短編集、二〇一四年の『密会』と二〇一五年の『燃え尽きた地図』のみである。つまり本研究の対象である初期の作品はスペイン語で読まれるのがその上記の短編集の作品だけである[1)]。

本論では安部公房の作品世界を理解するため肝心である彼の短編作家の面（特に書き始めたころ）を強調したい。初期に書かれた短編で、当時作風や課題を探求していた安部が様々な実験をし、また後にも使用した解答を見つけた。本研究はとりわけ彼の文学が成熟するまでの時期である、戦後時代（一九四五から一九五二まで）と占領時代の終わりから安保闘争のときまで（一九五二から一九六〇まで）という時代に注目した[2)]。その中で特別な重要性をもつと思われる変身物語に対象を絞った。特に「デンドロカカリヤ」（一九四九）、「夢の逃亡」（一九四九）、「赤い繭」（一九四九）、「S・カルマ氏の犯罪」（一九五一）、「バベルの塔の狸」（一九五一）、「魔法のチョーク」（一九五一）、「洪水」（一九五一）、「詩人の生涯」（一九五一）と「棒」（一九五五）という作品を選択した。

変身は初期の短編で繰り返し登場する現象であるだけでなく、その初期に行われた大事な変更を要求しているものでもあるといえる。今までの安部公房についての研究は当時の彼の変貌に関する多く論じられてきた（すでに一九七八年に本多秋五は安部のことを「変貌の作家」と呼ばれた）が、変身物語を具体的に充分に注目されていないと思われ、本研究ではとりわけ変身というテーマに着目した。

本論では安部公房が変身物語を書き始めた理由、そして変身物語を多く書いた理由について考察した。変身の意味を捕らえるには、このテーマの主な三つの特徴に注目した。それは安部の当時の変貌を支える三つの要素でもあるといえよう。このように、本研究を三つの理論的な視点から取り組み、それぞれの章に論じた。まず、第一章では〈新幻想文学〉と〈不条理文学〉というジャンルの理論を考察して、本論で扱う作品をこの二つのジャンルに位置づけた。そうすることによって、ある具体的な意図を示すテキストの形式的な性質が分かることができた。その意図は現実主義と異なる方法で現実を探検し、表現するということと、我々の世界が不条理であるというアイデアを表現するということである。今まで〈新幻想文学〉の理論を使用し安部公房の作品を分析されたことがなく、本論の新しさの一つとなる。

次に第二章ではアヴァンギャルドの理論を考察して、変身物語を分析した。安部は芸術と政治的なアヴァンギャルドのサークルに積極的に参加していて、その影響を当時の彼の作品で現れている。変身を

1）『不吉な物語集』（*Los cuentos siniestros*）は「パニック」（1954）、「犬」（1954）、「人肉食用反対陳情団と三人の紳士たち」（1956）、「鉛の卵」（1957）、「家」（1957）、「無関係な死」（1961）、「時の崖」（1964）が収録され、『月に飛んだノミの話集』（*Historia de las pulgas que viajaron a la luna*）は「R62号の発明」（1953）、「棒」（1955）、「独裁者」（1955）、「手段」（1956）、「耳の価値」（1956）、「使者」（1958）、「月に飛んだノミの話」（1959）、「トータル・スコープ」（1960）、「なわ」（1960）、「悪魔」（1963）、「子供部屋」（1968）が収録されている。

2）クアルテッチ氏が『Abe Kobo y la narrativa japonesa de posguerra』で提案する年表を使用する。

通じて、安部は自分のあらゆる芸術的な関心と政治的な心配を表現することができ、変身という手段は真正なアヴァンギャルドの手段であるといえる。要するに安部は芸術的・政治的なアヴァンギャルドの精神を抱きながら、アヴァンギャルドの以前の失敗を乗り越えようとして、現代を描く方法を探していた。彼にとっては革命の芸術と社会の変革は一つになるべきであって、本論では変身を通じて安部は両方の革命を統一することができたと論じた。

最後に、第三章では変身をアイデンティティ問題の隠喩として考察した。安部が初期からアイデンティティ問題に興味を持ち、様々な視点から考えた（自己の確立、アイデンティティの確立における故郷の重要性、他者との関係など）。変身物語を分析することによって、安部がそのテーマに論理的や創造的な可能性を見つけたといえる。アイデンティティ問題は安部公房の文学で繰り返して出てくる問題である。『終りし道の標べに』（一九四八）『けものたちは故郷をめざす』（一九五七）では安部が自己の構造における故郷の重要性について語っている。変身をテーマとする作品以降、アイデンティティ問題について語る方法が大きく変わってきた。今度登場人物のアイデンティティを脅すものは幻想的なものであり、安部の作品はより象徴的あるいは隠喩的になったといえます。

緊密に結ばれているこの三つの角度から安部公房の変身物語を分析してから、彼の初期に行われた変貌を更に深く理解できるようになった。今までこういう理論の組み合わせで安部の作品を論じられたことなく、本研究を通じて、以前他の研究者の結論を確証しながらも、新しい視点から安部公房の作品を考察することができた。

まず「新幻想文学」、「不条理文学」と「芸術のアヴァンギャルド」も現実を今までと違う角度から考察したいという目的が共通する。安部公房もそういう意図を持ち、この三つの方法を使用して、普通の目で見られない現実も探検しようと思った。安部公房にとっては芸術というのは幅広い領域であり、芸術的に自分を表したい気持ちさえあれば、様々なアプローチがあり得ると考えていた。その芸術の折衷主義的な概念を持っていたので彼の作品に様々な影響が見ることができる。

しかし芸術は革命的でもあるべきだと思っていた。それはリアリズムの手段を広げたいという意味だけでなく、社会的な問題を扱う必要があるという、政治的な意味もあった。安部公房にとっては人間に悩ませる問題が社会的な面はもちろん、個人的な面も重要であり、彼自身が述べたように「社会的実存文学の方法」を確立するつもりがあった[3)]。

このあらゆる意図や概念は初めて変身をテーマとする物語で見ることができる。本論で分析した作品は以降にまた展開した安部公房の文学の基本的な特徴が指摘できる、彼のキャリアの画期的な作品であるといえよう。

【参考文献】

1．分析対象の短編

・(2009)「デンドロカカリヤ」『安部公房全集　第二巻』(pp. 234-254) 東京：新潮社
・(1972)「デンドロカカリヤ」『安部公房全作品　第一巻』(pp. 243-261) 東京：新潮社
・(2009)「夢の逃亡」『安部公房全集　第二巻』(pp. 296-326) 東京：新潮社
・(2009)「赤い繭」『安部公房全集　第二巻』(pp. 429-509) 東京：新潮社
・(1972)「S・カルマ氏の犯罪」『安部公房全作品　第二巻』(pp. 7-84) 東京：新潮社
・(1972)「バベルの塔の狸」『安部公房全作品　第二巻』(pp. 84-126) 東京：新潮社
・(2013)「魔法のチョーク」『壁』(pp. 232-250) 東京：新潮文庫

3）本多秋五の「変貌の作家安部公房」62頁にて引用。

・(2013)「洪水」『壁』(pp. 225-231) 東京：新潮文庫
・(1951) (2009) *Vida de un poeta*「詩人の生涯」『安部公房全集　第三巻』(pp. 74-83) 東京：新潮社
・(1955) (1972) *El palo*「棒」『安部公房全作品　第五巻』(pp. 229-236) 東京：新潮社

２．スペイン語、英語、フランス語の文献

・Abe, K.(2015). *El mapa calcinado.* Buenos Aires: Eterna Cadencia.(Traducción de Ryukichi Terao).
・Abe, K.(2004). *La mujer de la arena.* Madrid: Siruela.(Traducción de Kazuya Sakai).
・Alazraki, J.(1983) *En busca del unicornio: Los cuentos de Julio Cortázar. Elementos para una poética de lo neofantástico.* Madrid: Gredos.
・Alazraki, J.(2001). ¿Qué es lo neofantástico? En(Roas, D.) *Teorías de lo fantástico.*(pp. 265-282) Madrid: Arco Libros.
・Alonso-Fueyo, S.(1949) *Existencialismo y existencialistas.* Valencia: Editorial Guerri.
・Ashton, Dore.(1997). *The delicate thread. Teshigahara's life in art.* Tokio: Kodansha.
・Bolaño, E.(2017). La persistencia de la memoria. Retrieved from https://historia-arte.com/obras/la-persistencia-de-la-memoria
・Bozzeto, R.(2001) ¿Un discurso de lo fantástico? En(Roas, D.) *Teorías de lo fantástico.*(pp. 223-242) Madrid: Arco Libros.
・Cabañas, P.(2000). *La fuerza de Oriente en la obra de Joan Miró.* Madrid: Electa.
・Campra, Rosalba.(2008). Territorios de la ficción. En *Lo fantástico.* Sevilla: Renacimiento.
・Camus, Albert.(1953). *El mito de Sísifo.* Buenos Aires: Losada.(Traducción de Luis Echávarri).
・Chavot, Pierre.(2001). *L'ABCdaire du Surréalisme.* Paris: Flammarion.
・Cuesta Abad, J.M. y Vega, A.(2018). *La Novela Elegía. Lo decible y lo indecible en Rilke.* Madrid: Siruela.
・Díaz Márquez, Luis.(1984). *Teoría del Género Literario.* Madrid: Partenón.
・Dörr Zegers, O.(2001). Prólogo. En *Las elegías del Duino y otros poemas.* Santiago de Chile: Editorial Universitaria.
・Dower, J.(1999). *Embracing Defeat. Japan in the Wake of World War II.* W. W. New York: Northon and Company/The New Press.
・Esslin, Martin(1966). *El teatro del absurdo.* Barcelona: Seix Barral.
・Fernández, T.(2001). Lo real maravilloso de América y la literatura fantástica. En(Roas, D.). *Teorías de lo fantástico.*(pp. 296-297). Madrid: Arco Libros.
・Giddens, A.(1995). *Modernidad e identidad del yo. El yo y la sociedad en la época contemporánea.* Ediciones Península.
・Hardin, Nancy S. y Abé, Kobo(1974). *An Interview with Abé Kobo.* Contemporary Literature, Vol. 15, No. 4. University of Wisconsin Press, pp. 439-456.
・Jiménez, J.(2013). *El surrealismo y el sueño.* Museo Thyssen-Bornemisza.
・Laing, R.(1975). *El yo dividido. Un estudio sobre la salud y la enfermedad.* Fondo de Cultura Económica.
・Lloyd, A.(2014) La mirada sartriana: el poder y la otredad en *El ser y la nada, La náusea y Huis Clos. Letras, 55,* pp. 113-128.
・Lozoya, J.A. y Kerber Palma, V.(2011). Japón contemporáneo. En Tanaka, M.(Coord.) *Historia mínima de Japón.* El Colegio de México.(Hemos consultado la versión electrónica).
・Miyamoto, Y.(2017). *Una flor.* Gijón: Satori.(Traducción de Hiroko Hamada y Virginia Meza).
・Murakami, F.(1996). Rinjin and tanin – Abe Kōbō. En(Murakami, F.) *Ideology and Narrative in Modern Japanese Literature*(pp. 52-62). Assen: Van Gorcum.

・Ortolani, B.(1990). *The Japanese Theatre. From Shamanistic Ritual to Contemporary Pluralism.* New Jersey: Princeton University Press.
・Quartucci, G.(1979). Los comienzos de la búsqueda. La etapa inicial de la narrativa de Abe Kobo. *Estudios de Asia y África XIV: 3.*(pp. 493-504). El Colegio de México.
・Quartucci, G.(1982). *Abe Kobo y la narrativa japonesa de posguerra.* El Colegio de México.
・Rilke, R.M.(2001). *Las elegías del Duino y otros poemas.*(Traducción, prólogo, notas y comentarios de Otto Dörr Zegers). Santiago de Chile: Editorial Universitaria.
・Roas, D.(2001). La amenaza de lo fantástico. En(Roas, D.). *Teorías de lo fantástico.*(pp. 7-44). Arco Libros, Madrid,
・Sakai, K.(1968). *Japón: hacia una nueva literatura.* El Colegio de México: Centro de Estudios Orientales. México D. F.
・Sakai, K.(1958). La literatura japonesa de post-guerra y la posición de Hiroshi Noma. En(Noma. H.) *El gran vacío,* Buenos Aires: Goyanarte.
・Sartre, J.P.(1984). *La Náusea.* Madrid: Alianza Editorial.(Traducción de Aurora Bernardez).
・Schaeffer, Jean-Marie(2006): *¿Qué es un género literario?* Madrid: Akal.
・Serra, Edelweis.(1978), *Tipología del cuento literario. Textos hispanoamericanos.* Madrid: Cupsa.
・Todorov, Tzvetan.(1981). *Introducción a la Literatura Fantástica,* México D.F.: Premia.
・Torres Rabassa, G.(2015). «Otra manera de mirar». Género fantástico y literatura del absurdo: hacia una impugnación del orden de lo real. *Brumal: Revista de Investigación sobre lo Fantástico,* Vol. III, (pp.185-205).
・Verneaux, R.(1952). *Lecciones sobre existencialismo.* Buenos Aires: Club de Lectores.

３．日本語の文献

安部公房の作品

・(1995)『〈真善美社版〉終りし道の標べに』東京：講談社
・(2009)『名もなきの夜のために』『安部公房全集　第一巻』(pp. 486-558) 東京：新潮社
・(1972)『けものたちは故郷をめざす』『安部公房全作品　第三巻』(pp. 141-291) 東京：新潮社
・(1972)『終わりし道の標べに』『安部公房全作品　第一巻』(pp. 1-110) 東京：新潮社

安部公房のエッセイや講演など

・(1976)「シュールリアリズム批判」『安部公房全作品　第十三巻』(pp. 148-156) 東京：新潮社
・(2009)「「革命の芸術」は「芸術の革命」でなければならぬ！」『安部公房全集　第三巻』(p. 268) 東京：新潮社
・(2009)「ピカソの変貌」『安部公房全集　第三巻』(pp. 54-57) 東京：新潮社
・(2009)「ピカソのリアリティ」『安部公房全集　第三巻』(pp. 172-175) 東京：新潮社
・(2009)「アヴァンギャルド文学の課題」『安部公房全集　第三巻』(pp. 198-200) 東京：新潮社
・(2009)「僕の小説方法論」『安部公房全集　第三巻』(pp. 177-180) 東京：新潮社
・(2009)「切実なもの―今日の文学者」『安部公房全集　第三巻』(pp. 260-273) 東京：新潮社
・(2009)「何を書きたいか―戦後作家の場合」『安部公房全集　第四巻』(pp. 348-358) 東京：新潮社
・(2009)「私の小説観」『安部公房全集　第四巻』(pp. 282-284) 東京：新潮社
・(2009)「何を書きたいかー戦後作家の場合」『安部公房全集　第四巻』(pp. 348-358) 東京：新潮社
・(1976)「死人の登場」『安部公房全作品　第十三巻』(pp. 223-226) 東京：新潮社